

IUNS



国際栄養学連合

International Union of Nutritional Sciences

設立

1948年6月

Website

<http://www.iuns.org/>

国際栄養学連合 (IUNS)

International Union of Nutritional Sciences



目的

- (1) 栄養科学およびその応用の研究における国際協力を推進する。
- (2) 国際会議・会合の開催，出版，その他適切な手段によって，栄養科学における研究ならびに学術情報の交換を促進する。
- (3) 上の(1)および(2)の目的達成のために必要な委員会，部会，その他の組織を設置する。
- (4) 他機関とのコミュニケーション手段を提供し，本連合が加盟しているICSUの活動への参加を促進する。
- (5) その他，本連合の目的達成に適切かつ有益な活動を行う。

国際栄養学連合（IUNS）の社会貢献



世界では人口増大等による栄養の欠乏と過剰な摂取を背景とした疾患の拡大が大きな問題となっており、さらにこれらが同一のコミュニティに共存する「二重負荷」が各国家の負担となっています。

また、2型糖尿病、腎臓病、心筋梗塞、がんなどの非感染性疾患（NCD）も世界的に拡大してきています。

IUNSは、提言や国際会議（ICN）を通じて情報提供すると共に、様々なタスクフォース等を通じて、各国におけるこれらの問題の解決・改善に寄与しています。IUNSは、WHOやFAOとも密接な関係にあり、食糧・栄養問題や政策提言にも大きな影響力を与えています。

国際栄養学連合（IUNS）の活動例



「Sustainable Diets」，「International Malnutrition」，「Precision Nutrition」など9つのタスクフォースの活動を進めています。例えば「Sustainable Diets」のタスクフォースでは，農業，環境，健康の観点から，人間の健康だけでなく，地球の環境保全も視野に入れた持続可能な食について検討しています。WHOのSDGs（持続可能な開発目標）には栄養が強く関連する目標が多く含まれており，健全な食生活のための持続可能な食料システム，母親や乳幼児への適切な栄養供給は，特に重要なテーマと位置づけられています。



国際栄養学連合 (IUNS) のメンバー

Affiliated Regional Bodies

Federation of Asian Nutrition Societies (FANS)

アジア栄養学会連盟 → 2015~2019年は日本が事務局

Federation of African Nutrition Societies (FANUS)

Federation of European Nutrition Societies (FENS)

Middle East and North Africa Nutrition Association (MENANA)

Sociedad Latinoamericana de Nutricion (SLAN)

Adhering Bodies

日本を含む83カ国



日本学術会議 IUNS分科会

Affiliated
Organizations

13組織



国際栄養学連合 (IUNS) の組織

運営機構

General Assembly総会 IUNS-ICN開催時 (約4年に一度)

Council 理事会 年1回

Secretariat 本部事務局

現在は, Secretary GeneralがUKのため, The Nutrition Society (UK)

財源

会員団体拠出分担金



日本学術会議も分担

国際栄養学連合 (IUNS) の役員 (2017年～2021年)



President: Alfredo Martinez (Spain)

President-Elect: Lynnette M Neufeld (Canada)

Vice-President: V Prakash (India)

Treasurer: Helmut Heseke (Germany)

Secretary General: Catherine Geissler (UK)

Council Members: **Teruo Miyazawa (Japan)**
宮澤 陽夫 (東北大学)



Hyu-Sook Kim (Korea)

Ali Dhansay (South Africa)

Benjamin Caballero (USA)

Francis Zotor (Ghana)

Andrew Prentice (UK)

国際栄養学会議 IUNS-ICN International Congress of Nutrition



| | | | |
|------|-----------|-----------------|---------|
| 1946 | ロンドン： | 17カ国から22名参加 | |
| 1952 | バーゼル： | 18カ国から150名参加 | |
| 1954 | アムステルダム： | 32カ国から360名参加 | |
| 1957 | パリ： | 22カ国から1000名参加， | 367件発表 |
| 1960 | ワシントン： | 65カ国から2000名参加， | 413件発表 |
| 1963 | エジンバラ： | 63カ国から1500名参加， | 225件発表 |
| 1966 | ハンブルク： | 81カ国から2100名参加， | 800件発表 |
| 1969 | プラハ： | 62カ国から1800名参加， | 896件発表 |
| 1972 | メキシコシティ： | 66カ国から2000名参加， | 834件発表 |
| 1975 | 京都： | 55カ国から2300名参加， | 900件発表 |
| 1978 | リオデジャネイロ： | 92カ国から3500名参加， | 1200件発表 |
| 1981 | サンディエゴ： | 83カ国から2500名参加， | 1011件発表 |
| 1985 | ブライトン： | 92カ国から2300名参加 | |
| 1989 | ソウル： | 104カ国から3500名参加 | |
| 1993 | アデレード： | 91カ国から2600名参加 | |
| 1997 | モンテリオール： | 92カ国から3250名参加 | |
| 2001 | ウィーン： | 113カ国から3550名参加 | |
| 2005 | ダーバン： | 92カ国から2100名参加 | |
| 2009 | バンコク： | 106カ国から4070名参加 | |
| 2013 | グラナダ： | 127カ国から3896名参加， | 3600件発表 |
| 2017 | ブエノスアイレス： | 97カ国から3038名参加， | 2500件発表 |
| 2022 | 東京 | | |
| 2025 | パリ | | |



第22回国際栄養学会議 22nd IUNS-ICN

2022年12月6日～11日
会場：東京国際フォーラム

組織委員で力を合わせて、
開催の準備をしています





日本学術会議とIUNSとの関係

宮澤 陽夫 [第22期～24期連携会員] : IUNSの理事

清水 誠 [第19期, 22期・23期会員 (IUNS分科会委員長),
第25期連携会員] : IUNSのFellow

加藤 久典 [第23期・24期連携会員 (IUNS分科会委員長)] :
IUNSの選挙管理委員 (2013年～2017年)
2022開催のIUNS-ICN (東京) の組織委員長

熊谷 日登美 [第23期連携会員, 第24期・25期会員(IUNS分科会委員長)] :
2022開催のIUNS-ICN (東京) の広報委員長

藤原 葉子 [第23期・24期連携会員 (IUNS分科会委員)] :
2022開催のIUNS-ICN (東京) の行事接遇委員長



IUNS栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップ IUNS International Workshop on Capacity and Leadership Development in Nutritional Sciences

主にアジアの地域の若手栄養学研究者育成のための国際ワークショップを、日本学術会議IUNS分科会，公益社団法人日本栄養・食糧学会，特定非営利活動法人日本栄養改善学会，国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所との共同主催で，3～4年に一度，東京で開催しています。今年は，新型コロナウイルス感染症拡大のため，オンラインでの開催です。

- 第1回： 2010年9月7日（火）～9日（木）
- 第2回： 2014年3月11日（火）～13日（木）
- 第3回： 2017年3月7日（火）～9日（木）
- 第4回： 2021年12月11日（土）～12日（日）

母体団体： 国際栄養学連合（IUNS）